

経常益2割増2200億円

SMFL、航空機・不動産拡大

29年3月期にROE10%超

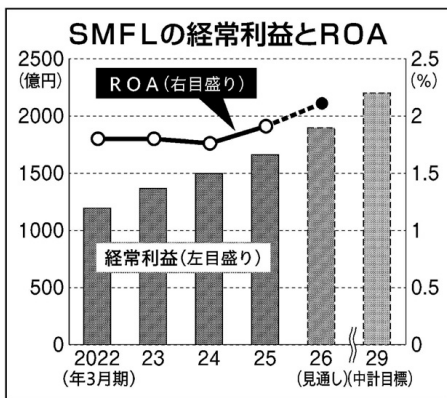
三井住友ファイナンス&リース(SMFL)は2029年3月期を最終年度とする3カ年の新中期経営計画で、経常利益を26年3月期予想比約2割増の2200億円に引き上げる方針だ。30年に経常利益を2000億円に高める長期目標を前倒しで達成する。主力の航空機ビジネスを手がけるグローバルビジネス事業や不動産事業の利益拡大を見込む。第三者資本を活用したアセットマネジメントビジネス、資産売却や再投資による回転型ビジネスを推進し、収益性も高める。



経常利益2000億円とする長期目標を前倒しする(今枝社長)

SMFLの今枝哲郎 社長が日刊工業新聞のインタビューで明らかにした。SMFLは月内に新中計を公表する。新中計で示す経常利益などの目標の達成には「国内リース、環境エネルギー、海外金融ビジネスの三つが、二つの柱(航空機と不動産)を拡大した航空機、不動産

SMFLの今枝哲郎 社長が日刊工業新聞のインタビューで明らかにした。SMFLは月内に新中計を公表する。新中計で示す経常利益などの目標の達成には「国内リース、環境エネルギー、海外金融ビジネスの三つが、二つの柱(航空機と不動産)を拡大した航空機、不動産



「ビジネスなどでアセットマネジメントビジネス、回転型ビジネスを推進し、資産が大きく拡大するのを抑えながら効率的に稼ぐ仕組みをつくる。今枝社長は収益性の向上に向け、「物件のリースだけでなく、資産売却でも収益を出せる」と方針を示した。

29年3月期に自己資本利益率(ROE)を10・0%以上(26年3月期は10・2%見通し)とする目標も盛り込んだ。SMFLがROEを中計目標に設けるのは初めて。今枝社長は「日本でもROEを重視する経営が定着してきている。今後もしっかりとした資金調達をしながら持続的に成長するためには、資本効率を意識した経営が必要だと判断した」とROEを目標に設定した理由を説明した。リース業界では競合他社もROEを意識した経営を進めている。オリックスが28年3月期にROE11%、三菱HCキャピタルが29年3月期にROE10%を目標としている。